

昭和二十一年八月十日 協議会 於 紋場合議室午後一時三十分

出席議員 豊井 田村 森田 議員欠 全員(十三名)

議長 即 沢 大野 課長

一 協議事項を、通り

1. 茅三カ子校舎の新築の申請に記載の通学区について (承認)

2. 傳染病棟の建築を区について (報告)

3. 農業委員会委員(都)選挙について

4. 茅三カ子校舎建築を区について

5. 新設道路について

6. 北川お地先の架橋を区について

7. 住民投票問題について

1. の茅三カ子校舎を区については建築許可申請と同外に通学区についての
書類を区に提出したが、現在の茅三カ子校舎建築場所は美濃には通学区域外
であるから、議の書類上、これを通学区としてお出し、承認したい

追即、この地についての通学などの変更は、教科書等の問題もあり、
新卒期がうやうやい、世帯教として二十世帯位にして異動し
て、少教の足量と思ふ。

二、傳染病棟建築があり、四、五日で完成する、当町に西多摩社は
名をかしき工事等について、聯合会にまかせてある決りです。

この病棟は建築一、三、四、工費三、九、四、四、です。

これについて、老害は、一、都市防阻会の傳染病長組合と福生病院
との契約をすることになり、その件については、依託を要するところ
と思ふが、来る十四日には、今更に、予定の通りです。

結構な病棟が、あまますが、工事費、外に、老害、か、るうじ、大体三、四、五、
四、位、か、る、こと、と思ふ。

神即金については、予定の押金が、予算について決まらないうで、速く、
ることと思ふ、現在、支払、困、つ、いて、支障を来さ、る、か、
つ、て、は、西多摩長が、借り、て、支拂、つ、て、振、り、ます。

患者の糞尿処理、入院は、いつ、か、う、あ、る、か、又、これ、つ、いて
西多摩は、優、先、的、に、入、院、あ、る、か、病床数は、いく、つ、あ、つ、て、若
室、兼、用、じ、か、入、院、に、つ、いて、老、害、は、等、の、負、担、か、あ、り

その解答は、糞尿は、浄化装置による、消毒、を、吸、入、と、す、

入、院、は、大、体、三、日、過、ぎ、は、あ、る、入、院、は、勿、論、西、多、摩、は、優、先、的、
に、入、院、あ、る、病床数は、三、床、に、し、て、一、床、二、床、五、床、等、つ、ろ、く
あり、類似、に、つ、いて、病、床、も、あ、る、入、院、費、用、は、全、額、町、で、支
拂、つ、て、あ、る、補、助、は、国、庫、に、し、て、都、が、一、半、で、全、額、補、助、が
ま、る、が、食、費、一、日、一、〇、四、に、は、お、人、支、拂、と、な、る、

お、病、院、の、完、成、に、同、様、に、火、葬、場、も、考、慮、し、な、け、れ、ば、と、の
課題、も、起、つ、た、

三、農業委員会委員選挙(都)に、お、町、より、森、田、幸、造、氏
が、立、候、補、い、た、う、で、議、決、を、お、知、か、う、し、何、分、の、後、援、を、得、たい

四、お、町、シ、ョ、学、校、の、建、築、に、つ、いて

本日上棟式もやるやうになつた

これについては議々皆之始め特に野島田村副議員には特に
毎日この日の中にも早くかう通く現場に行かれ、或る場合
は工事執行者となり監督者となり、あれこれと立場を考へた
面から指導監督して頂いた、いろいろの面をむづりし、莫れ
あつたが、い、進、来、た、事、は、皆、之、と、其、に、中、同、業、に、堪、え、な、い
ところにある。本日の上棟式については、新しくの聴いた、
これは、この、お、は、工、事、を、やる、人、の、労、を、お、お、う、つ、て、最、後、迄、よ、く
この工事をやつて頂きたい、この事、の、意、を、ある、と、聞、いた

尚、金、の、面、に、ある、が、支、拂、は、出、金、の、方、と、い、ふ、こ、と、に、ある、が、上、棟
式、迄、(一〇〇万、四、千、と、い、ふ、こ、に、前、の、所、取、が、口、約、束、に、あ、つ、た、こ、う、な、る、の、あ
る、理、由、を、進、め、る、万、の、支、拂、に、あ、る、が、こ、の、行、き、違、ひ、の、費、用、に
は、な、い、と、思、ふ、工、程、は、上、棟、式、に、参、加、の、際、に、是、を、頂、き、たい
野島田村副議員から、進、の、報、告、を、し、て、頂、き、たい

至理面については、田村議員より、始めの約束は、(一〇〇万、四、千、と、い、ふ、こ、に、あ、つ、た、が、
れ、る、万、の、支、拂、に、あ、る、が、今、社、の、支、拂、は、九、九、九、万、四、千、以、上、の、支、拂、が、
い、ふ、あり、工、事、は、約、一、千、万、の、工、事、は、進、ん、で、い、る、と、思、ふ、

又野島議員より、は、工、事、の、進、行、情、況、を、次、の、通、り、報、告、した
至理と工、事、の、進、行、は、不、理、一、体、の、と、い、ふ、こ、に、あ、る、田、村、議、員、か、ら、の、通、知、が、あ、つ、た
支、拂、額、以、上、工、事、は、進、ん、で、い、る、と、い、ふ、こ、に、あ、る、二、階、梁、の、通、り、に、あ、つ、た、
電、気、工、事、の、件、等、に、通、知、

昨、日、の、通、知、の、支、拂、は、一、二、八、八、三、一、千、四、百、と、い、ふ、こ、に、あ、つ、た、と、い、ふ、こ、に、あ、つ、た、
田、村、支、拂、に、あ、る、上、棟、式、の、通、り、に、あ、つ、た、の、は、二、階、梁、が、七、日、十、日、に、
入、荷、手、差、し、あ、つ、た、が、二、日、の、間、に、通、り、に、あ、つ、た、と、い、ふ、こ、に、あ、つ、た、と、い、ふ、こ、に、あ、つ、た、
向、に、立、内、が、あ、つ、た、

今、迄、の、内、題、に、つ、いて、皆、之、に、中、の、協、力、を、願、つ、て、や、つ、て、頂、き、たい
中、野、島、議、員、より、普、通、住、民、は、建、築、費、一、千、と、い、ふ、こ、に、あ、つ、た、が、今、迄、の、
あ、つ、た、支、拂、額、に、よ、つ、て、こ、の、工、事、に、つ、いて、進、め、る、と、い、ふ、こ、に、あ、つ、た、

に ついて 容易に 考へるより この工事には 予想以上の 是積に 入る
が あつた 是 田舎には 一畝 五 四 欠 投 と 考へて あつた が 今 田舎は
も つた 莫大なる 欠 投 となる と思ふ。

こは
われこれ
あべこの
掌が
かた
ミエ
あ
ふ
て
思
ふ

満員管理の問題
これは何かするかと云ふことに
ついて、たんなる金
の支拂に
ついては、
一、
これに
かかる仕事があるの
は、その
点から
見て、
又、
担保に
入れた
件に
ついて
も、
社長と
決めた
が、
これは
回数が
ついて
来るや
うな
件。
又、
青森市
の中
に、
校
建
築
を
見
ま
した
件に
ついて
報告
が
あ
つ
た

町長より 中野淳光あうの貸由について 野島淳光あう 解答があり

まゝ
たが
ニ
の
中
に
つ
て
ニ
は
私
く
し
の
考
え
た
か

前の外長が二の契約をした。その線に断つてやつて行きたいが、
 この前の協議会に出席した。だが、當時担保物を出取つてやつ
 て来た次第で、出今の問題については後日に譲つて行きたい。
 森田(英)氏はより約一〇〇万円の資金はつかにし、支出をしたが、
 資本金については外長より協和銀行より五〇万円、協和地今より
 一〇〇万円の信用地金より一五〇万円、簡易保険から四〇万円ある。
 は一般財政から一〇〇万円してある。

高ニ有る題にツシ 神助金 赴債等について 従然しと
高橋曰 貸より 諸算管理に似通つたこの味にツいて 支拂か
あまのうちは 両儀之が行つてわつて張つていかに ちまうと
つた場合 田子とばかりの

森田幸恵　こはあく迄諸君全額いやすといふことでは、
しん考之地持つてが、いおわと思ふ、そう

西村侯より 心執し過す。そうして内題が来る場合の処理
して行くべきじ 新慮は考へたとして理想は追ひべきである
二五〇五回の拙著物中述しゝやうなので新慮するこゝを必要としない
と思ふ 森田侯々と全く同戒である。

こゝで留校跡を今讀んで後事だとの朝日新聞の記事が議會
傍聴をしたと申す入があるが如何にすかを語り差支なけれ
のこゝで傍聴を許うこと

5. 道院新設に付て

牛馬かう銀と吾れに新設といはれ道路かう中
 孝下面に向つ
 乙道路をつけた、差支なかつたう早速測量し
 振興事業
 念におよばせ願はれ
 賛成 多数

ニルにうゑ 通夢の身の安全を考へると中夜の點卯を待つて銀鼠
傳りに行くやうにするこそが安全と思ふ(井坂傳次)

現在は造勢自動車の通行がはげしく、心かえつて中環の踏切

を司るより、
正田につけ
た方が安全
と思ふ（木
崎菰）

中世につては土樺丸に現場に行くとよく美地に曳乙度くと
 いしと

6. 池川地芝の架橋の費用についで

これは前の通りと云ふ所の事をいふのであるが、西村様共同にやつた
事があるか。こり先費、三十九円かい。この内訳書が通は
ぬて来たが、そのうちの二五〇〇円は都々神助金であり残りの
一三四〇五円が西村様の負担になるか。この令担につては高野も
はつきりと決まらずにわづらひであるが、高野は七一三式は
第一回の割合で今七、八割といふところの議を聞けたが、現在では十二
月にして既成なつと申しして来ようとするか。如何なる令担とする

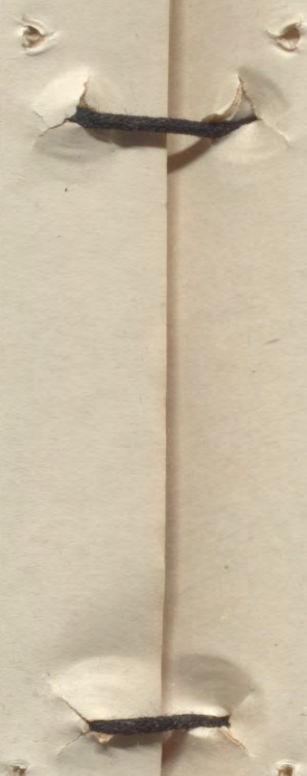
並木傳之 あの橋はほとんじが葉秋留い判用するとのいあり
高所としては判用は少ないといふ所の判用三四の五の位い

より思ふ

村野村 あり橋は加へた面、船が利用すると、その本村留に
しては南通式の費用等もそうた打ち出すとせるといふことを
その為村に聞かした。

西村港よりセーシ位といふ所であつたといふ事もあり、公共施設
的なものであるからセーシを公表してお令せしむべきといふ
7. 同様の住民投票につて

湘越管より、日五の住民投票執行の告示があつた
この問題につて初めから同様の議中、越勢部長から
議を聞かした方が、新法したといふといふ日、同様に行政
新法部長から意見を聞かしたか、前任者からの申し込
みあり、湘越町の議決からしては、議決した事はない
又、同様の議決もこの議決のつてあるといふ事として、住民投票に
勝つて賛成しつての議決があつた



その後の公営委員より命令、及抑止かうの通知命令等
模様、同様にあつた場合の所、完全関係(含バンフレット問題)
等議決、協定にこの住民投票の全回を回して負けた
事のないといふ議決、これについて、議員各位より、議会報告

をやつて所をいふ、これは、そうした事によつて、議決とならない

西村 何等かの選挙運動をしないか、これは、ないが、なぜ住民投

票をしないか、ならなかつたか、意見をよく知らしめなければならぬ
方法としては、議会報告、所として、何等かの報告をすべきが、所
民に認識を与へることになる

又、同様の問題につて、公営委員が取り、的なことをいふこと
について、五人は、承認あるといふこと、思ふ。

議決を取り、いふことは、不決であり、これは、住民投票の終つた
後にすべきこと

所収、五日市は、所自体、公営委員と四ツに組んだよう

ルヤニ

九の五、張子

井上 校印用紙の注意を記す

後良あり
後波地
封照に
釐成か
反封か
也内
やの
である

松
之
造
竹
七
し
二
納
得
し
二
負
勝
サ
ウ
に
し
二
負
カ
、
大
い

の骨子をうつくる。ニルによつて博會報告として發したい

九の骨子は十五日迄におゆする

に
是
れ
い

ニ
に
つ
つ
は
言
へ
な
つ
て
の
事
を
あ
ら
う

じ
ぢ
ぢ
ぢ
ぢ
ぢ
ぢ

所載
譯念心
決
了
は
~~終~~
管より
報
出
は
一
級
に
あ
る
こ
と

⑤ 二にフリーな師匠をおかたつては池子やせとやるのむつかしい

新設の議会報告について 抑合があるのじ堤 昨今の田舎は

通知して参るか

町長 議員も進んでやつて頂きたい

西村 二つ家の議会に於て三名の反対があつたこの新聞の記者が

たか

町長 その事については新聞記者に申入れをしたが、ある新聞記者から

とつていふあり新聞の記者を毎々が苦つたつて西新聞がそうし

たろうかあつた。三名の反対があつたといふことは老選につ

てある

浮長 ソレゆゑに見てもおれが選挙の苦手となつたので先般議会の

た議会報告をして賛成が多くあるやうに話し、願ひたい

午後四時終了

五時より茅草を校上棟式

福生町議会議員名簿(昭和26年9月) 日 宛 協(会)

13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
船木甚平	村尾種吉	野島毎	貫井伊作	中野七五郎	高橋三郎	瀬古清藏	設楽美知	田村福一	井上頼太郎	森田喜一	石川武雄	田村政一
26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14
高橋彦市	田村利一	西村節	村尾四郎	村野盛一	村野喜平	鮎沢美代子	森田誠重	田村幾太郎	井梅恭輔	橋本雄一	森田幸藏	並木竹松

相談役
昭和廿六年九月五日

相談役会長

田村利一

協談会制確通知

尤親により協談会制確いたしますから
巾着緋リ片等集りさい。

九月一日
午後一時より

協談会制確通知
公金質屋設置についで
その他

八ヶ倉工業例の道路台相について

九ヶ倉工業例の道路台相について

(1) 公金質屋の中

都営に設置出来るやう日野田無地共同に再三陳情設置

三十分用会
新橋本課長

相談
昭和廿六年

八月五日
相生町談合議長

田村利一

殿

協談会制確通知

左親により協談会由健いとしてますから
巾着緋リ片方集り下さい。

一日
場所
談事

九月一日(土)午後一時より
相生町談合会談室
公金質屋設置に
その他